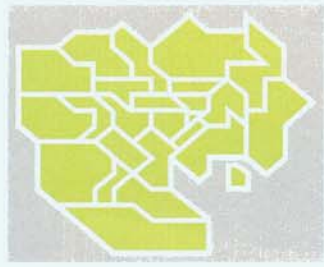


街



散歩

M A C H I - S A M P O
“文・遊合従”——不思議な街の風趣に遊ぶ



旧牛込駅舎跡

外濠と並行して走るJR総武線——その北側の車窓から明るく広がる風景が、無料なビルの壁に閉ざされて急に狭まると、電車は、弓のようにカーブする飯田橋駅のホームにゆっくりと滑り込む。流れを失ったお濠の水面を挟んだ南と北で、街の風趣が180度違う、何とも変わった駅。学生街の清新さと賑わいにあふれた一角を過ぎると、古くからの小料理屋などが立ち並び、悪くはない風韻を漂わす。今となっては貴重な、静かな情景も残している。今回は、不思議な街、JR飯田橋駅界隈を散歩してみます。



JR飯田橋駅

JR山手線が描く歪んだ円形を、ほぼ二分するかのように横断して走るのが、レモン色をした車両のJR総武線です。

都心への通勤・通学の主要路線としてお馴染みの同線は、東関東の中核拠

点・千葉市と東京西部のベッドタウン・三鷹市をつなぐ電車です。山手線の内側にある総武線の各駅のうち、御茶ノ水駅から四ツ谷駅までは、「水」と「橋」という共通のイメージに彩られており、総武線の車窓からは、伸びやかで立体的な風景が広がる、美しい東京

の風景を望める区間といえます。

今回の街散歩の舞台となる「飯田橋」駅も、その区間内にある駅の一つ。この駅の特徴は、大きなカーブを描いている独特のホーム。車両の両端の乗降口では、ホームとの間に30cmほど(目測)の開きがあり、電車への乗り降りを非常



牛込橋から見た外濠



外濠公園



東京大神宮



日・仏語で書かれた標識



JR 飯田橋駅



飯田橋名物・クジラの絵

にスリリングなものにしています。

飯田橋駅が開業したのは、昭和3年(1928年)。それ以前は、「牛込駅」という甲武鉄道時代からの駅舎がありました。現在でも、市谷方面出口南側の線路脇に、その名残りの古い階段を見ることができます。

市谷方面・牛込橋に出て、まず目に入るのが、明るく広がる外濠の景色。生い茂る木々と、古い石垣・牛込見附門が印象的です。

左(南)側に早稲田通り、右(北)側に神楽坂下の賑わいを楽しみながら、しばしその景色を眺めてみるのも、おつなものですよ。

早稲田通り界限

法政大学、日本歯科大学をはじめ、さまざまな学校が集まる千代田区側。スーツ姿のビジネスマンよりジーパン姿の若者のほうが多く、早稲田通り沿いの居酒屋や商店にも活気があります。通りの東側に入ると、ビルに隠れるように木造の家屋が並んでおり、庶民的な街の一面も垣間見えます。

縁結びで知られる東京のお伊勢さま

「東京大神宮」があるのも、このあたり。日本で最初の神前結婚式が行われたこの神社、恋の成就を願うも良し、お守りや携帯電話のストラップを買うも良し……。

さらに南へ下ると、今度は教会があります。街の人に尋ねると、「大学の留学生やフランス人学校に通う人が多いので……」とのこと。言われてみると、道行く人のなかに外国の人が多く、交通標識にフランス語が併記されているものもあります。ここは、異文化の交流ゾーンでもあるようです。

宵の坂道・神楽坂

牛込見附門から橋を渡り、飲食店が多く集まる神楽坂へ向かいます。

急勾配の坂の両側には、坂上まで居酒屋や大衆割烹の店が並び、それらに挟まれて食器屋、くだもの屋などが店を構えています。飲食店は和・洋・中を問わず、いろいろな味が楽しめます。「食」に関係する店が多いのも、この坂の昔からの特徴といえるでしょう。

「純和風」の雰囲気を楽しみたい人には、横道に入ることをお勧めします。

そこには、上品な店看板が並び、趣きある小料理屋が点在しているからです。料理だけでなく、お座敷、食器、作法など、食事の時間を本格的に楽しむことができるはずですよ。

南で学び、北で憩う

牛込橋を境に、昼と夜の表舞台が入れ替わる飯田橋。今回の散歩は、その二つの要素を感じながら歩くものとなりました。

最も印象に残ったのは、街に活気が溢れていたこと。その主役は、駅周辺を闊歩する若者、坂沿いに営々とした商いを続けている飲食店とその馴染み客……。昼は南で学び、夜は北で食べ、飲み、憩う——「文遊合従」。こんな言葉が、この街にはよく似合うのかもしれない。

参考文献

- 山手線の東京案内
『鉄道と地図のフォークロア』
木本 淳著／批評社発行
- 東京史跡ガイド
『千代田区史跡散歩』
岡部喜丸著／学生社発行